

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST.(2009)84(2)

April 2009

# GSJ

## コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY



GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会 ime

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>



目 次

頁

日本遺伝学会第81回大会案内（その2）.....	3
新 名誉会員「潮の流れ」関口睦夫.....	8
<b>本 会 記 事</b>	
2009年度日本遺伝学会第1回幹評議員会議事録.....	9
会員異動.....	10

## 日本遺伝学会第81回大会案内

2009年5月8日

2009年の第81回大会は、信州大学理学部を会場に、下記のような企画で準備を進めています。全国から多くの方々の参加をお待ちしております。

大会ホームページ (<http://science.shinshu-u.ac.jp/~iden81/>) では、今後より詳細な最新の情報をご覧いただけるようにする予定です。ランチョンセミナー、機器・試薬等展示、広告掲載についての詳細は大会ホームページに掲載予定です。

第81回大会では学生の参加を歓迎するため、演者として事前登録した学生会員の参加費は無料とし、旅費の一部援助も行います。また、優れた発表は Best Papers 賞として表彰いたします。

1. 会 場： 信州大学理学部 A棟および講義棟（松本市旭3-1-1）
2. 会 期： 2009年9月16日(水)・17日(木)・18日(金)  
なお、市民公開講座を9月16日(水) 17:30-20:00に予定しています。
3. 企 画：
  - (1) 一般講演（9月16日(水), 17日(木), 18日(金) 各日 9:00 - 12:00）  
講演時間は1題につき15分（発表12分、質問3分）を予定しています。PC用プロジェクター機材のみを用意しますので、各自発表用PCをご持参下さい。
  - (2) シンポジウム、ミニ・シンポジウム、およびワークショップ  
9月16日(水), 9月17日(木) 13:00-17:00, 9月18日(金) 13:30-15:30  
シンポジウム、ミニ・シンポジウム、およびワークショップは以下の18テーマを予定しています。タイトルと世話人は以下の通りです（一部、仮題を含みます）。各企画の詳細な日時、内容と発表者公募の有無は、大会ホームページおよび大会ニュースその3に掲載の予定です。
    - (1) ゲノム安定性を支える細胞機能  
世話人：山本 和生（東北大学）、関口 陸夫（福岡歯科大学）
    - (2) ゲノムのデザインに挑戦する  
世話人：板谷 光泰（慶應義塾大学）、片岡 正和（信州大学）
    - (3) 自分が興味を持つ遺伝子がどの範囲の環境微生物に存在するのかを探索する方法：環境微生物ゲノム配列からのお宝遺伝子発掘の学部や高校教育における活用（ミニ・シンポジウム）  
世話人：池村 淑道（長浜バイオ大学）
    - (4) 遺伝学が解き明かす細胞内オルガネラのダイナミクス  
世話人：有村 慎一（東京大学）、松永 幸大（大阪大学）
    - (5) 核ダイナミクス研究の新展開  
世話人：深川 竜郎（国立遺伝学研究所）、野々村賢一（国立遺伝学研究所）
    - (6) 生物地理学からゲノム機能学へ  
世話人：城石 俊彦（国立遺伝学研究所）
    - (7) 遺伝学のゲノム革命と次世代シーケンサー（シンポジウム）  
世話人：五條堀 孝（国立遺伝学研究所）、小林 一三（東京大学）
    - (8) DNA 損傷応答と DNA トーランス  
世話人：菱田 卓（大阪大学）、篠原 彰（大阪大学）
    - (9) モデル動物におけるトランスポゾン  
世話人：浦崎 明宏（国立遺伝学研究所）、川上 浩一（国立遺伝学研究所）

- (10) 日本の DNA 複製研究の過去、現在、未来 (シンポジウム)  
世話人：正井 久雄 (東京都臨床医学研究所), 伊藤 建夫 (信州大学)
  - (11) 量的形質研究の展望  
世話人：斎藤 成也 (国立遺伝学研究所)
  - (12) Happy together? ゲノムと転移因子 (シンポジウム)  
世話人：中屋敷 均 (神戸大学), 古賀 章彦 (京都大学)
  - (13) 遺伝学の素材としての日本の野生生物  
世話人：鈴木 仁 (北海道大学), 酒泉 満 (新潟大学)
  - (14) 遺伝学用語集編集委員会の新設とその活動について  
世話人：布山 喜章 (元東京都立大学), 池内 達郎 (東京医科歯科大学)
  - (15) ハイスループット遺伝子改変技術と真菌類研究の新展開  
世話人：井上 弘一・田中 秀逸 (埼玉大学), 藤村 真 (東洋大学)
  - (16) 集団遺伝学的解析の新たな展開  
世話人：館田 英典 (九州大学)
  - (17) チョウ目昆虫の分子遺伝学とその応用  
世話人：塩見 邦博 (信州大学)
  - (18) 男女共同参画ランチョンワークショップ：  
優れた科学の芽を皆でサポートするために  
世話人：松浦 悦子 (お茶の水女子大学)
- (3) 公開市民講座 ※入場無料 9月16日(水) 17:30-20:00

<公開市民講座の概要>

本公開市民講座では、まず、第1部として、第一線の遺伝学者、医学者から研究成果やその実践への応用などについて講演をしていただきます。続いて、第2部として、高校、大学において遺伝学教育に携わる教員、遺伝学の研究成果や人々とのかかわりを社会に伝えるメディア関係者にも加わっていただき、それぞれの立場から、「現代社会における遺伝学の教育と普及のあり方」について、意見や取組みの実状などを語っていただくとともに、問題解決の方策をも探るパネル討論会を開催いたします。

第1部：最先端遺伝学者、医学者による講演会

- 1 森 政之 (信州大学大学院加齢適応医科学系, 准教授)  
健康増進のための運動生理学の成果の実践と遺伝子解析
- 2 斎藤 成也 (国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門, 教授)  
遺伝情報から見る人類進化
- 3 宇佐美真一 (信州大学医学部耳鼻咽喉科学, 教授)  
先天性難聴の遺伝子診断

第2部：パネル討論会

コーディネーター

- ・池内 達郎 (東京医科歯科大学, 非常勤講師)  
話題提供：日本遺伝学会の役割

パネリスト

- ・能勢 博 (信州大学大学院加齢適応医科学系, 教授)  
話題提供：加齢, スポーツ医科学の立場から
- ・斎藤 成也 (国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門, 教授)  
話題提供：集団遺伝学の立場から
- ・宇佐美真一 (信州大学医学部耳鼻咽喉科学, 教授)  
話題提供：臨床研究の立場から

- ・ 武部 啓 (近畿大学大学院遺伝カウンセラー養成課程, 教授)  
話題提供: 生命倫理の観点から
- ・ 福嶋 義光 (信州大学医学部遺伝子診療部, 教授)  
話題提供: 遺伝子診療とゲノムリテラシー
- ・ 松田 章利 (長野県教育委員会, 前長野県諏訪清陵高校教員)  
話題提供: 高校における遺伝学教育の実状
- ・ 今津 博文 (読売新聞科学部記者)  
話題提供: 市民の遺伝リテラシーの実状と報道

#### ＜公開市民講座の目的＞

遺伝学, ゲノム科学を中心として, 生命科学の分野は急速に進展しており, ノーベル生理学・医学賞受賞者の多くがこの分野から出ています. この分野の目覚ましい進展は生命科学のさらなる発展に寄与するとともに, 研究成果が医療, 保健などの分野で利用され, 重要な役割を果たすようになってきています. しかし, これらの研究成果の恩恵を受けるべき一般の人々の遺伝学, ゲノム科学に関する知識・理解が十分とは言えないままに, マスメディアや商品広告には遺伝子, DNA という言葉が飛び交っています. また, 組み換え食品, クローン家畜, 個人情報保護, 生命倫理なども日常的な話題となり, 人々はどちらかといえば情緒的に漠然とした危惧・不安を感じています. このような現代社会においては, 初等・中等・高等教育を通じての遺伝学 (特に, ヒトの遺伝学) の基礎の正しい理解 (遺伝リテラシー) が強く望まれます. 一方で, 遺伝的な体質や遺伝病についての正しい理解をうながし, 偏見をなくするような遺伝学 (特に, ヒトの遺伝学) の教育改善・実施, それに基づく市民への普及が容易ではないことも指摘されています.

日本遺伝学会第81回大会公開市民講座では, まず, 第一線の遺伝学者, 医学者から研究成果とその応用についてお話しいただき, 遺伝学, ゲノム科学の進展の状況, および人・社会とのかかわりについて理解を深めることを目指します. その後で, 高校で遺伝学教育に携わる教員, および遺伝学の研究成果や人々とのかかわりを社会に伝えるメディア関係者にも加わっていただき, それぞれの立場から, 「現代社会における遺伝学の教育と普及のあり方」について, 意見や取組みの実状を語っていただくとともに, 浮き彫りになった問題解決の方策を探るパネル討論会を開催します. このような学会の社会的啓蒙活動においては, 継続性による議論の深化が重要と考えます. そこで, 今回は前年度大会の公開市民講座のパネリストから2名の方にパネリストをお願いしています. また, 62年ぶりの長野県での日本遺伝学会大会の開催が, この地域において普段は遺伝学に直接ふれる機会のない方々に対し, 日々の生活との関わりを再認識していただく契機となることを目指します.

4. 講演要旨受付: 2009年6月15日(月) - 7月8日(水)
5. 総会・受賞講演: 信州大学理学部 1番教室 (予定) 9月17日(木) 17:00 - 19:00
6. 懇 親 会: 信州大学生協 安曇ホール 9月17日(木) 19:00 - 21:00
7. 学生への旅費援助

学生会員の参加奨励のため, 発表する学生会員に旅費の一部を援助 (交通費実費程度) いたします. ただし, 所属研究室や日本学術振興会などから旅費が支給される方はご遠慮ください.

※大会全期間参加を条件とします (9月16日 - 18日).

申請方法: 以下の6点をA4一頁に記載し, 下記住所まで郵送して下さい.

- 1) 氏名, 2) 所属と学年, 3) 所属住所, 4) 旅費援助希望理由, 5) メールアドレス, 6) 指導教員のサインと押印.

注) 申請書は1人につき1枚提出してください. 研究室単位の連名の申請は, 先頭記載者のみの申請とみなされます.

締め切り：7月8日(水)着

送付先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会  
日本遺伝学会第81回大会 旅費援助申請  
TEL：055-981-6736 FAX：055-981-6736

## 8. Best Papers 賞：

昨年の大会と同様の要領で、大会発表の一般演題の中から優れた研究発表10件程度を選んで表彰いたします。ワークショップ等の口演発表に選ばれた演題も対象になります。

## 9. 一般講演申し込み：

大会ホームページ (<http://science.shinshu-u.ac.jp/~iden81/>) の申し込み画面から申し込んで頂くようになっております。

### 申し込みの注意点

- ・日本語要旨と英語要旨の両方の登録をお願いします。
- ・一般講演の申し込みは1人1題を原則とします  
(シンポジウム, ミニ・シンポジウム, ワークショップ等の招待者は、この限りではありません)。
- ・一般講演で発表できるのは日本遺伝学会会員のみです。2009年度までの遺伝学会費を7月15日(火)までにお納めください。
- ・発表される方で日本遺伝学会に未入会の方は、先に入会手続きを日本遺伝学会ホームページからお願いします (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/nyukai.html>)。なお、会員でなくても非会員扱いで大会に参加はできます。
- ・オンライン演題登録後、確認修正画面で登録番号とパスワードにより登録をご確認下さい。
- ・登録番号やパスワードを忘れた場合のお問い合わせには応じられません。パスワードを忘れた演題で修正が必要になった場合には、登録をやり直し、大会事務局 ([iden81@aeplan.co.jp](mailto:iden81@aeplan.co.jp)) にお知らせ下さい。  
講演要旨締め切りは7月8日(水)です (6月15日-7月8日)。

## 10. 参加登録：

今回から日本遺伝学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/nyukai.html>) の大会参加登録画面から参加申し込みを行うことになりました。GGs Vol. 84 No. 2 の郵便払込取扱票の通信欄に以下の2点を記入し、下記郵便振替口座までお振込みください。

- (1) 下記の参加費と懇親会費(一般・学生・一般非会員・学生非会員)、それぞれの金額と合計の金額
- (2) 学生の方は、所属機関、学年、指導教員名  
合計金額が0円の場合はお振込不要です。

\* 払い込んだ方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。

\* 1枚の払込取扱票を用いて研究室単位等でまとめて支払わないようお願いします。所定の振込用紙がない場合、郵便局に備え付けの振替用紙(青色)で、下記郵便振替口座までお振込みください。

<送金先>郵便振替

口座番号	00120-5-773555
加入者名	日本遺伝学会 第81回大会事務局

参加費 会員の方：2009年度までの遺伝学会会費を7月15日(水)までにお納め下さい。

現在非会員で会員料金で参加される方：先に入会手続きを行って下さい

(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/nyukai.html>)。

	事前登録 (6月15日-8月7日迄)	当日登録
一般会員	7,000円	8,000円
学生会員	3,000円(但し演者は無料)	4,000円
一般非会員	9,000円	10,000円
学生非会員	3,000円	4,000円

## ・懇親会費

	事前登録 (6月15日 - 8月7日迄)	当日登録
一般会員	6,000円	7,000円
学生会員	3,000円	4,000円
一般非会員	6,000円	7,000円
学生非会員	3,000円	4,000円

## 注意事項

- ・大会及び懇親会への参加者は、参加登録を行ってください。参加章の無い方は、原則として会場への入場はできません。
- ・参加登録の完了には、Web 参加登録及び参加費振込の両方が必要です。注) 海外からの参加者は当日受付でのお支払いとなりますので、この限りではありません。
- ・8月8日(土)以降の参加登録は、当日受付にてお願いします。
- ・8月7日(金)迄に Web 参加登録と参加費振込を済まされた方には、8月下旬に参加章と講演要旨集を郵送します。それ以外の参加者には大会当日にお渡しします。
- ・\*海外からご参加の場合の注意点 お支払いは当日受付で行ってください。事前登録頂いた場合は、まず総合受付までお越し下さい。事前登録されていない方は、当日受付までお越し下さい。参加章と講演要旨集は参加費と引き換えにお渡しします。

## 当日登録

事前参加登録をされなかった方は、当日会場で参加登録をお願いします。(参加章と講演要旨集は参加費と引き換え)

当日登録の学生非会員は、学生証を提示お願いします(提示のない場合：一般非会員扱いとなります)。ご不明な点がございましたら、下記の日本遺伝学会第81回大会事務局までご連絡ください。

## 11. 日本遺伝学会第81回大会準備委員会

大会委員長	伊藤 建夫 (信州大学理学部)
事務局 長	浅見崇比呂 (信州大学理学部)
プログラム委員長	伊藤 靖夫 (信州大学全学教育機構)
ホームページ	西尾 信哉 (信州大学医学部)
委員	塩見 邦博, 志田 敏夫, 下坂 誠, 関口 順一, 田口 悟朗, 橋本 昌征, 林田 信明, 福島 達也 (信州大学繊維学部)
	宇佐美真一, 福嶋 義光 (信州大学医学部)
	片岡 正和 (信州大学工学部)
	酒泉 満 (新潟大学理学部)
公開市民講座協力	能勢 博 (信州大学大学院加齢適応医科学系)
	樋口 京一 (信州大学大学院加齢適応医科学系)

12. 連絡 先： 日本遺伝学会第81回大会事務局 (株 エー・イー企画内)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2-8 昭文館ビル3F  
Tel : 03-3230-2744, FAX : 03-3230-2479  
Mail : iden81@aeplan.co.jp

### 「潮 の 流 れ」

九州大学名誉教授，福岡歯科大学客員教授  
関 口 睦 夫



私の住んでいるマンションは，福岡市の西を流れる室見川の河口に面している。潮がひくと中洲が現れて，そこにカモメやウグイスが群れ，様々なサギの類が集ってくる。潮が満ちると川と海の境はなくなり，水面には海の魚が姿をみせることがある。毎日眺めていると，潮の満ち引きはだんだんとずれていき，季節が移ると共に干潟の景色も変わってくる。

私達が関わっている遺伝子の研究も，個々の研究はそれぞれのペースで進められていくが，マクロでみると大きな潮の流れに動かされる。分子レベルの遺伝子研究についていえば，20世紀半ばから21世紀初頭にかけて大きな3つの波がうち寄せてきた。第一の波は1950年代から60年代初めにかけてで，この時期にDNAの二重らせん構造が明らかになり，遺伝暗号が解かれた。これによってセントラルドグマが確立したといわれるが，その研究に用いられたのはほとんど細菌とファージであって，果してそれが高等生物にまで適用され得るか定かではなかった。この問題に突破口を開いたのは，1970年代に入って登場したDNA組換え技術である。これによって，それまで不可能であった高等生物の遺伝子の構造や発現の研究が可能となり，生きている細胞や個体の遺伝子を意のままに改変できるようになった。これが第二の波である。

このようにして20世紀の終り頃までに，ヒトを含む高等生物の遺伝子について膨大なデータが得られたが，それだけでは遺伝子系の全体像は見えてこなかった。いわばジャングルの中を歩きまわって興味ある樹をみつけその根元から梢の先まで詳しく調べてみたが，それだけではジャングルの全体の姿はわからないというようなものであった。ジャングルの姿を知るには全体を俯瞰する地図が必要であるが，遺伝子研究においてそれに相当するのはゲノム全体の塩基配列である。地図づくりには多くの技術上の問題があったが，1990年代に入って塩基配列決定の方法は急速な進歩を遂げ，2004年には30億対に及ぶヒトのゲノムの塩基配列が明らかになった。現在までに数百種類の生物についてもそのゲノム配列が明らかにされており，遺伝子の研究は新しい局面に入った。生体の機構を明らかにするには個々の遺伝子やその産物の働きを詳しく知る必要があるが，それが孤立したものにならないようにするには，全体の中での位置づけを確認しつつ研究を進めていく必要がある。ゲノム情報はまさに研究を進める上で地図の役割を果たすもので，これは遺伝子研究の第三の波といえる。

遺伝子をもとにした生命の研究は今後どう進んでいくのであろうか。生命活動の中心をなすタンパク質は他のタンパク質や生体物質と複合体をつくり，さらに生体内外の刺激などをうけて複合体の構成は変化する。現在のところそれを予測する手段は確立されていないが，その情報もまた遺伝子に内包されているとするとその原理を明らかにする必要がある。生物を人工的につくり出すことによって初めて生命の機構が把握できると考えると，それを達成するまでにはさらに何回も大波をくぐっていかなければならないだろう。



◆2009年度日本遺伝学会第1回幹評議員会議事録◆

日 時：2009年3月25日（水）13：00－14：40

場 所：お茶の水女子大学理学部2号館207-209

出席者：五條堀孝，小林武彦，真木寿治，遠藤 隆，岩崎博史，池村淑道，松浦悦子，斎藤成也，伊藤建夫，荒木弘之，堀内 嵩，片山 勉，颯田葉子，館田英典，田嶋文生，金澤 章，山本和生，牧野耕三，関根靖彦，田村浩一郎，菱田 卓，篠原 彰，杳掛和弘，和多田正義，関口睦夫，藤 博幸

- 1 会長挨拶（五條堀）
- 2 幹事・評議員の自己紹介
- 3 報告・協議事項
  - 3.1 企画集会幹事（岩崎）
 

第82回大会（札幌）は2010年9月20，21，22日に開催予定であると報告された。また，第83回大会候補地は関西地区と九州地区を候補に検討することにした。
  - 3.2 国内庶務幹事（小林）
 

選考委員，調査委員，会計監査の紹介を行った。また，選挙の投票率アップを図るため選挙制度改革 WG を発足し，電子化導入の早期実施を目指すこととした。その他，遺伝学会紹介のためのパンフレットを作成することにした。
  - 3.3 会計幹事（真木）
 

小林前会計幹事より2008年度の収支について説明がなされた。
  - 3.4 編集幹事（遠藤 隆）
 

小林前会計幹事より GGS 制作会社の入札実施および結果について説明がなされた。また遠藤編集長より，REVIEW の募集，GGS PRIZE 2008 推薦の依頼，副編集長設置の提案がなされた。（人選は遠藤編集長に一任となったが，後日，館田英典編集委員に依頼して承諾を得て，編集委員会・評議員会で了承された）
  - 3.5 将来計画幹事（山本，代理小林）
 

遺伝学談話会を中国四国地区および関東地区にて開催する予定であると報告された。また，法人化については周りの学協会の動向を見ながら対応していくこととした。  
五條堀会長より遺伝学用語集編集委員会発足の経緯や目的等についての説明がなされた。
  - 3.6 男女共同参画（松浦）
 

今までの活動状況について，学会 HP に男女共同参画のページを掲載および推進特別委員の募集について説明がなされた。また，松本大会でのランチョンセミナー開催についての説明がなされた。
  - 3.7 広報担当（斎藤）
 

大会参加登録システム構築についての説明がなされ，試作版の作成を田村評議員に依頼し了解を得た。また，GSJ.COM の内容の充実について話し合い，GSJ.COM 編集委員会を立ち上げるなどの意見が出された。評議員の方々へ原稿執筆の協力をお願いし，了承をいただいた。さらに今後英語版 HP の強化をはかしていきたいとの抱負が述べられた。
  - 3.8 遺伝学普及・教育担当（池村）
 

新規会員の獲得や退会者（シニア会員）の菌止めになるようなイベントを今後開催することを検討中であることの説明がなされた。
  - 3.9 第81回大会委員長報告（伊藤）
 

大会準備状況の報告および高校教育を対象にした出前授業を企画検討中の説明がなされた。また，大会委員長よりプログラム委員会への協力要請の依頼がなされた。
  - 3.10 今後の遺伝学会について（五條堀）
 

今後の遺伝学会についてフリートークを行い，次のような事項が話題となり，活発な意見が出された。

    - BP 賞受賞者による次期大会での発表について
    - 奨励賞の年齢引き上げと名称の改変について
    - 会費の検討（特に学生，シニア）について
    - 評議員のサイエンティックな活動ができるような企画の検討

以上

◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

白井雄彦	565-0871	大阪府吹田市山田丘3-2 大阪大学蛋白質研究所
Ahn Keun Ho		C. P. O. Box 1920, Seoul 100-619, YeongJae Corporation Korea
駒井正彦	171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学大学院理学研究科生命理専攻
花田耕介	230-0045	神奈川県横浜市鶴見区末広町1-7-22 理化学研究所
片岡正和		(連絡先自宅のため不掲載)
山本歩	039-1192	青森県八戸市大字田面木字上野平16-1 八戸工業高等専門学校

連絡先変更

笹沼恒男	997-8555	山形県鶴岡市若葉町1-23 山形大学農学部生物資源学科
高橋一男	700-8530	岡山市津島中3-1-1 岡山大学異分野融合先端研究コア
木村亮介	903-0215	沖縄県中頭郡西原町字上原207番地 琉球大学 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構
飯田滋	422-8526	静岡県駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部
齋藤茂	444-8787	愛知県岡崎市名大寺町字東山5-1 自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 細胞生理研究部門
松原和純	467-8501	名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1 名古屋市立大学 システム自然科学研究科 生体構造情報系

退 会

松島眞一郎, 平井百樹, 益淵正典, 小林栄治, 畑下昌範, 林 弘三, 増山和花, 佐藤 隆, 津田弘久, 和田克彦, 吉田和夫, 三宅 崇, 後藤真帆摩, 木崎原祥文, 野田和彦, 宮城 徹, 石橋みなか, 佐々木卓治, 宮本旬子, 茨城県農業総合センター農業研究所図書室, (株)七宝研究室, 近畿大学医学部図書館, 大阪歯科大学図書館, 静岡大学附属図書館

訃 報

TAN, C. C. (外国名誉会員) 2008年11月1日に逝去されました。享年101歳  
樋渡宏一 (国内名誉会員) 2009年3月7日に逝去されました。享年88歳

謹んで、哀悼の意を捧げます。

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 79	No. 3, 4, 5	(2009)
(独) 農業技術研究機構作物研究所研究報告		No. 10	(2009)
人と自然	Vol. 19		(2008)
Journal of Applied Genetics	Vol. 49	No. 3, 4	(2008)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 14	No. 6	(2008)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 15	No. 1	(2009)
JOURNAL OF CHINA-JAPAN FRIENDSHIP HOSPITAL	Vol. 22	No. 5, 6	(2008)
ACTA SOCIETATIS BOTANICORUM POLONIAE	Vol. 77	No. 4	(2008)
MONOGRAPHIAE BOTANICAE	Vol. 98		(2008)

(鈴木真有美)

# 日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員とすることができる。  
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。  
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。  
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。  
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。  
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。  
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。  
7) 評議員会は、会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。  
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。  
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。  
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。

<p><b>Genes &amp; Genetic Systems</b> 第84巻2号（付録） 2009年6月10日発行 非売品 発行者 品川日出夫・斎藤 成也 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 <a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html">http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html</a> （電話・FAX 055-981-6736） （振替口座・00110-7-183404） 加入者名・日本遺伝学会</p> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
---	---